

令和元年度

決算説明資料

令和2年10月8日

上下水道局

目 次

[下水道事業会計]

	頁
1 下水道未整備地域について……………	1
2 緊急雨水整備事業の進捗状況について……………	6
3 名古屋中央雨水調整池等の進捗状況について……………	7
4 三階橋ポンプ所の能力増強について……………	8
5 雨水処理費負担金等の推移について……………	9
6 空洞調査について……………	10
7 汚泥焼却灰の再利用について……………	11
8 堀留水処理センター上部空間等の活用に関する市内プロジェクト協議会の 検討状況について……………	12
9 水質調査について……………	13

[水道事業会計]

10 水道の水需要予測、給水実績及び河川ごとの給水可能量について……………	18
11 水道の水源地建設負担金について……………	19
12 有収水量及び給水収益の推移について……………	20
13 給水停止件数の推移について……………	21

[工業用水道事業会計]

14 工業用水道の水需要予測、給水実績及び河川ごとの給水可能量について…	22
15 工業用水道の水源地建設負担金について……………	23

[共通]

16 工事請負契約における 1 者入札の状況について……………	24
---------------------------------	----

1 下水道未整備地域について

(1) 整備状況

(令和元年度末)

区 分	中川区・港区の 庄内川西部地区	守山区の 志段味地区	緑区の一 部地区	全 市
累 計 処理面積 (ha)	1, 6 5 7	7 9 4	3, 6 0 2	2 9, 0 8 7
計 画 処理面積 (ha)	1, 8 2 4	1, 0 0 5	3, 6 3 4	2 9, 5 7 2
面 積 普 及 率 (%)	9 0. 8	7 9. 0	9 9. 1	9 8. 4
処理人口 (千人)	1 0 3. 5	2 7. 2	2 4 5. 7	2, 3 0 9. 3
行政人口 (千人)	1 0 8. 2	3 4. 9	2 4 7. 5	2, 3 2 4. 9
人 口 普 及 率 (%)	9 5. 7	7 7. 9	9 9. 3	9 9. 3

(注1) 緑区には未整備地区が点在しているため、表記は「緑区の一部地区」としているが、数値は緑区全体のものを表示している。

(注2) 処理人口、行政人口については、100人単位で集計している。

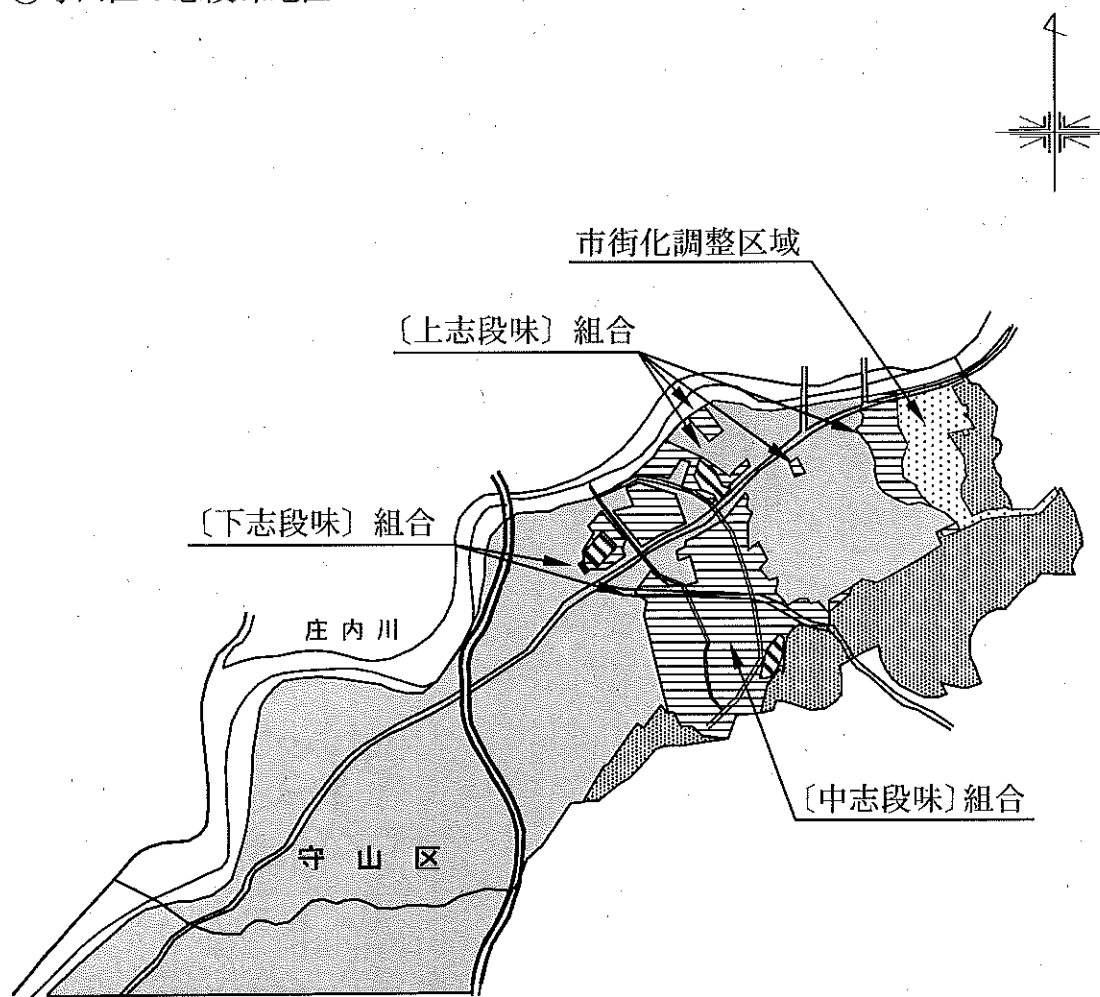
(2) 整備面積の推移

(単位 ha)

区 分	中川区・港区の 庄内川西部地区	守山区の 志段味地区	緑区 の一部地区	全 市
27年度	32	9	8	49
28年度	30	10	3	43
29年度	31	9	0	40
30年度	24	1	7	35
元年度	30	0	5	35

(注) 平成30年度は上記の地区とは別に、天白区の開発行為において3haの整備を実施している。

②守山区の志段味地区



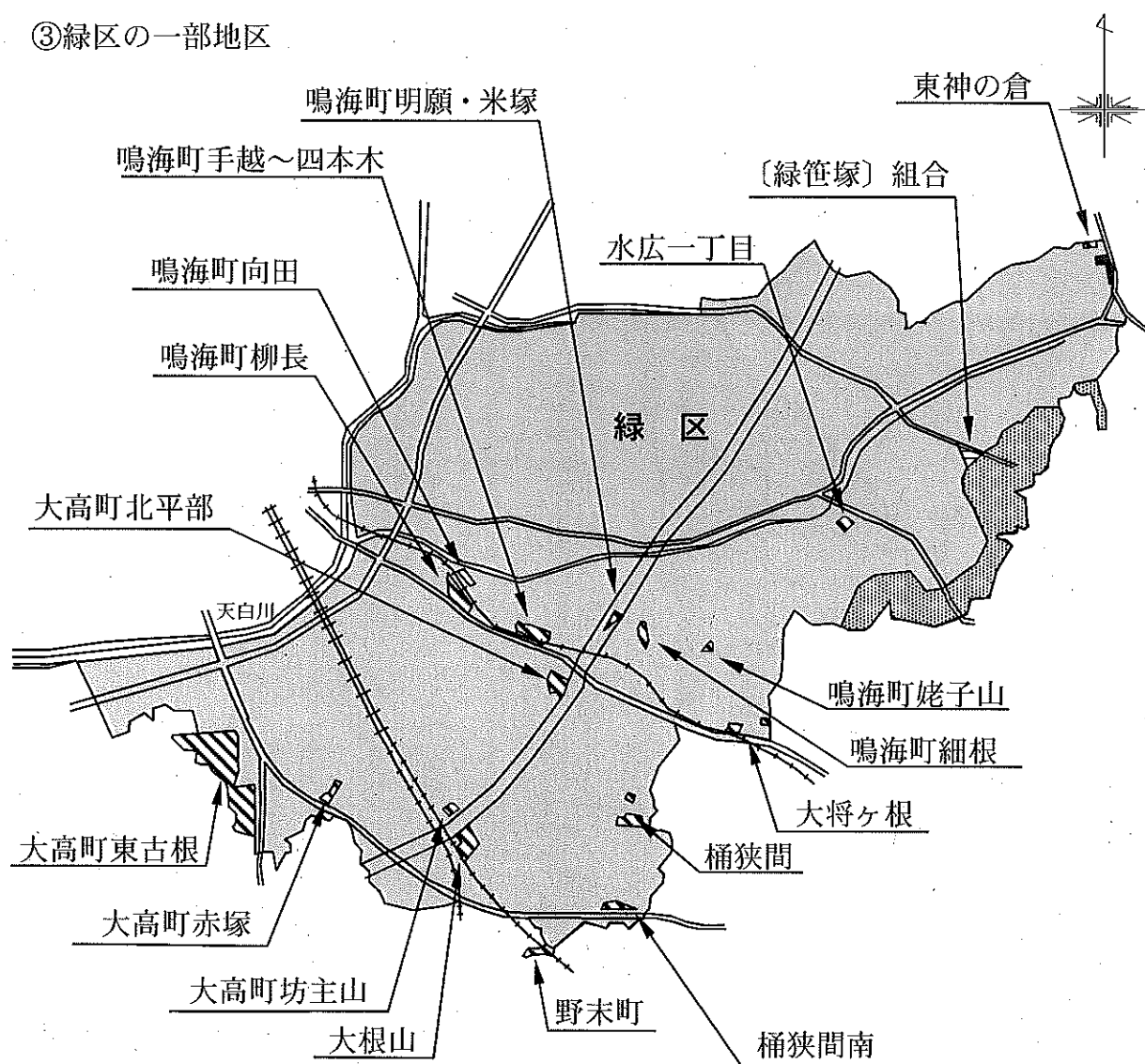
(令和元年度末)

面積	累計処理面積 (ha)	794
	計画処理面積 (ha)	1,005
人口	処理人口 (千人)	27.2
	行政人口 (千人)	34.9

凡 例	
	整備済区域 (平成 30 年度末)
	整備区域 (令和元年度)
	未整備区域 (市街化区域内)
	未整備区域 (市街化調整区域内)
	未整備区域 (土地区画整理区域内)
	計画区域外 (市街化調整区域内)

(注) 処理人口、行政人口については、100人単位で集計している。

③緑区の一部地区



(令和元年度末)

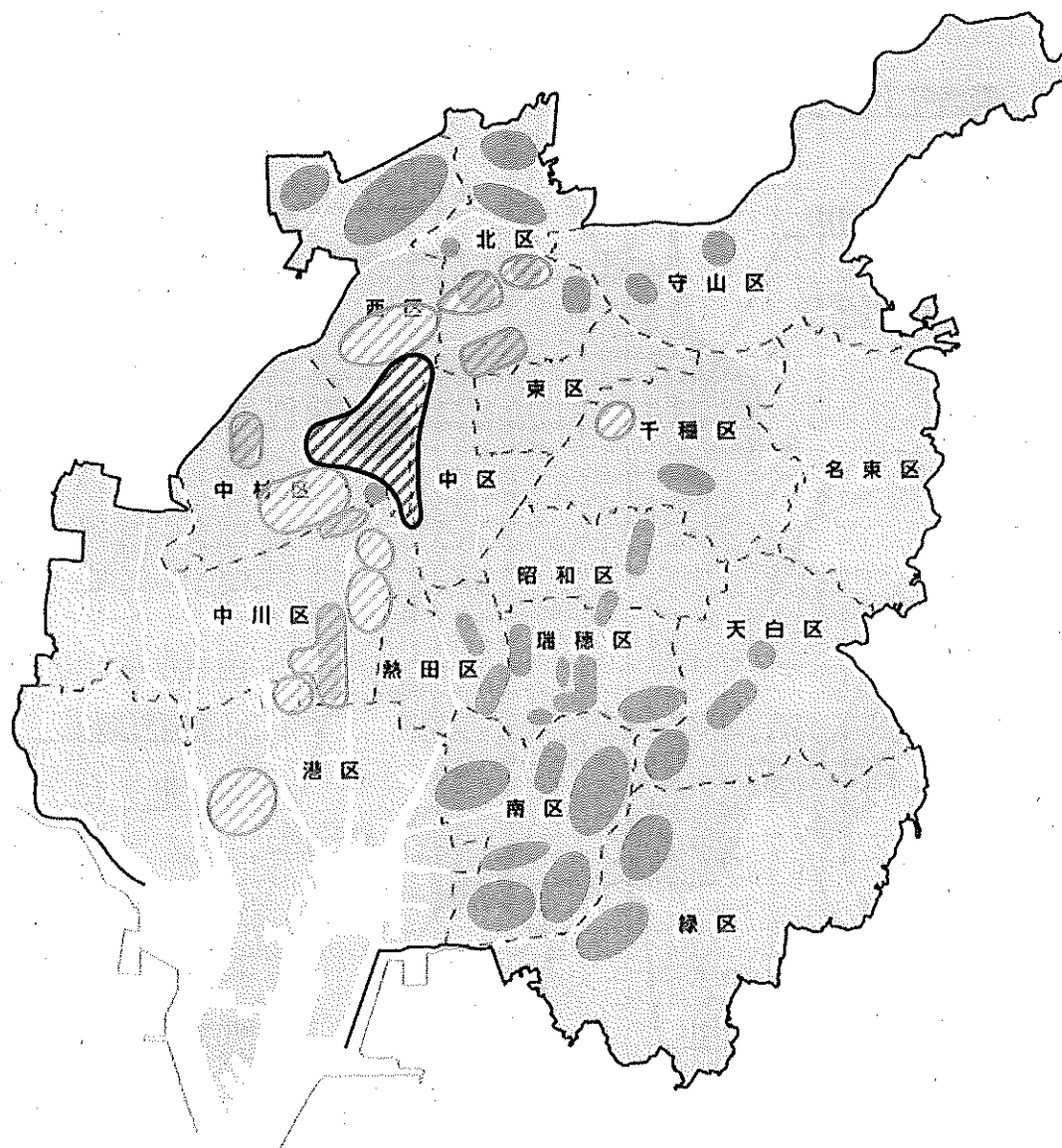
面積	累計処理面積 (ha)	3,602
	計画処理面積 (ha)	3,634
人口	処理人口 (千人)	245.7
	行政人口 (千人)	247.5

凡 例	
	整備済区域 (平成 30 年度末)
	整備区域 (令和元年度)
	未整備区域 (市街化区域内)
	未整備区域 (土地区画整理区域内)
	計画区域外 (市街化調整区域内)

(注 1) 緑区には未整備地区が点在しているため、表記は「緑区の一部地区」としているが、数値は緑区全体のものを表示している。

(注 2) 処理人口、行政人口については、100人単位で集計している。

2 緊急雨水整備事業の進捗状況について



(令和元年度末)

	東海豪雨を受けての対策のうち主な対策が完了した地域	36地域
	平成20年8月末豪雨を受けての対策のうち主な対策が完了した地域	7地域
	平成20年8月末豪雨を受けての対策のうち主な対策が未完了の地域	1地域

3 名古屋中央雨水調整池等の進捗状況について



4 三階橋ポンプ所の能力増強について

(1) 目的

改築・更新にあわせた雨水ポンプの排水能力増強

(2) 排水量

30年度	元年度
1,820 m ³ /分 (約30.3 m ³ /秒)	2,096 m ³ /分 (約34.9 m ³ /秒)

(注) 排水量は各年度末の数値である。

5 雨水処理費負担金等の推移について

(単位 億円)

区 分	21年度	26年度	29年度	30年度	元年度
雨水処理費 負担金等	395	367	347	341	339
雨水処理費 負担金	375	335	313	307	304
緊急雨水 整備事業費 負担金	20	32	34	34	35
緊急雨水 整備事業費	110	53	64	102	84
企業債残高の 平均利率 (%)	2.59	1.95	1.56	1.43	1.30

6 空洞調査について

(1) 調査方針

- ・建設後50年を経過した下水管が埋設されている路線を調査
- ・都市機能が集積している名古屋駅、栄駅、金山駅周辺の下水管が埋設されている路線を定期的に調査

(2) 空洞調査延長と空洞発見数

区 分	30年度	元年度
空洞調査延長 (km)	161.3	150.4
空洞発見数 (箇所)	258	231

7 汚泥焼却灰の再利用について

区 分	搬 出 量 (t)	処 理 費 (千円)
セメント原料	6, 0 7 8	1 4 1, 0 8 6
改 良 土	2, 7 7 9	1 5, 9 7 5
そ の 他	9 5 0	1 6, 0 8 9
合 計	9, 8 0 7	1 7 3, 1 5 0

8 堀留水処理センター上部空間等の活用に関する 庁内プロジェクト協議会の検討状況について

(1) 目的と検討体制

目 的	資産の有効利用の観点に加え、栄地区に隣接する堀留水処理センターの上部空間等をより都心部にふさわしい魅力ある空間にするため、民間ノウハウを取り入れた効果的な公共空間活用の事業化に向けての調査及び検討等を行う。
検討体制	観光文化交流局、住宅都市局、緑政土木局、上下水道局

(2) 主な内容と意見

開 催 日	主 な 内 容	主 な 意 見
令和元年 11月18日	庁内プロジェクト協議会の目的、検討内容、検討体制について確認するとともに、堀留水処理センターの上部空間等の活用を図る上での課題について議論	・下水道施設が地下にある中で、水処理機能を確保しつつ上部空間等の活用を図る上での構造的な検討や使用可能な範囲の整理が必要 ・魅力ある空間とするために新堀川の水質浄化も重要な視点
令和2年 2月7日	第1回協議会後の各局の取り組み状況等について情報共有を図るとともに、第1回協議会で確認した主な課題（堀留水処理センター、まちづくり、都市公園、水環境の改善等）の解決に向けての方向性等について議論	・堀留水処理センターの将来の改築を見据えた検討が必要 ・下水道施設や都市公園について立体的な検討が必要 ・久屋大通公園南エリア及び多目的アリーナとの繋がりについて整理が必要

(注) 部長級職員で組織される庁内プロジェクト協議会開催に先立ち課長級会議を開催（令和元年11月13日、令和2年1月20日）

9 水質調査について

(単位 mg/L)

区 分	30年度	元年度
晴天日	4.0	4.6
雨天日	2.3	1.8

(注1) 名城処理区放流水の生物化学的酸素要求量(BOD)

(注2) 晴天日は月2回測定、値は年平均値

(注3) 晴天日の法令による水質基準値は、15mg/L

(注4) 雨天日は年1回測定、降雨量10mm以上30mm以下の降雨時に実施

(注5) 雨天日の値は高級処理水、簡易処理水、直接放流水の汚濁負荷量から
国のマニュアルで定められた方法で算出した値
法令による水質基準値は、70mg/L

(参考1) 水質汚濁に係る環境目標値

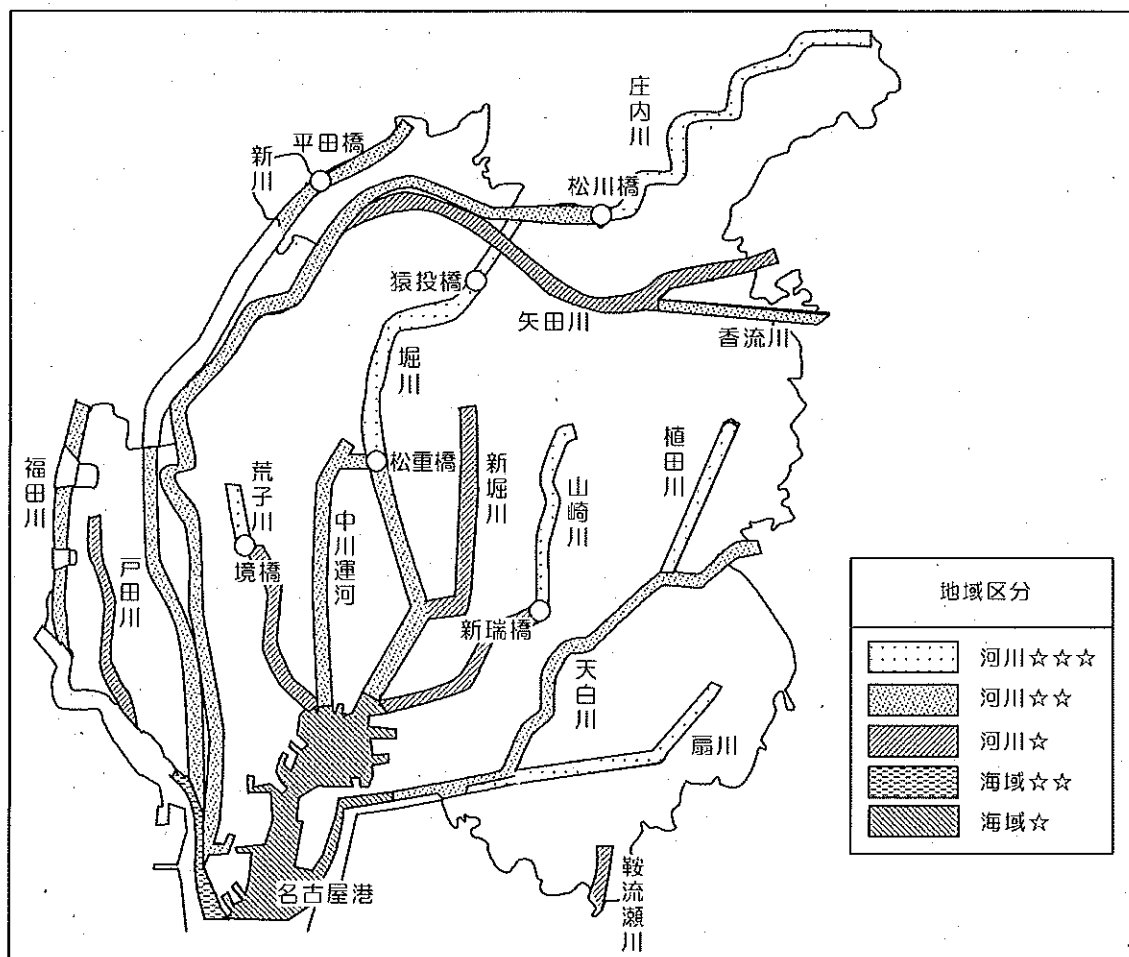
①水質汚濁に関する目標

区 分	河川			ため池		海域	
	☆☆☆	☆☆	☆	☆☆	☆	☆☆	☆
水質のイメージ	川に入っ ての遊 びが 楽し める	水際 で の遊 び が 楽し める	岸 辺 の 散 歩 が 楽し める	水際 で の遊 び が 楽し める	岸 辺 の 散 歩 が 楽し める	水際 で の遊 び が 楽し める	岸 辺 の 散 歩 が 楽し める
生物化学 的酸素 要求量 (BOD)	3 mg/L 以下	5 mg/L 以下	8 mg/L 以下	—	—	—	—
溶存 酸素量 (DO)	5 mg/L 以上	5 mg/L 以上	3 mg/L 以上	—	—	5 mg/L 以上	5 mg/L 以上
ふん便性 大腸菌 群数	1,000 個/ 100 mL 以下	—	—	—	—	—	—

(注) 平成17年7月名古屋市告示第402号

最終改正 平成25年9月名古屋市告示第506号から抜粋

②地域区分



(参考2) 公共用水域の水質常時監視データ

測 定 日	生物化学的酸素要求量 (BOD) (mg/L)	溶存酸素量 (DO) (mg/L)
30年 4月11日	6.6	5.3
5月16日	3.1	5.7
6月13日	2.9	4.0
7月11日	2.1	2.7
8月 1日	2.8	4.6
9月12日	5.1	2.5
10月 3日	1.9	5.6
11月 7日	6.2	4.5
12月20日	2.9	6.2
31年 1月 9日	2.2	6.8
2月 6日	3.2	5.2
3月 6日	2.6	3.9
4月17日	5.1	6.0
元年 5月 8日	6.5	4.6
6月 5日	3.5	5.4
7月 3日	3.1	3.0
8月 7日	2.6	3.9
9月 4日	2.1	3.9
10月 2日	2.4	3.4
11月 6日	2.4	5.9
12月 4日	2.4	6.2
2年 1月15日	2.0	6.6
2月 5日	2.7	5.8
3月 4日	1.8	5.0

(注1) 公共用水域の水質常時監視データ (環境局)

(注2) 測定箇所 小塩橋

ふん便性大腸菌群数 (個/100mL)	当日降雨状況 (mm)
3,700	1.0
1,000	0.0
550	—
1,500	0.0
670	—
1,800,000	1.0
1,000	—
6,000	—
390	—
240	0.0
2,800	1.0
870	8.0
2,000	13.0
24,000	—
550	0.0
5,700	6.5
510	—
550	13.5
5,400	0.0
60	—
2,400	0.0
440	0.5
290	0.0
600	6.5

10 水道の水需要予測、給水実績及び河川ごとの給水可能量について

(1) 水需要予測

(単位 万 m^3 /日)

目 標 年 次	27年度
一日最大給水量	124

(2) 給水実績

区 分	30年度	元年度
一日最大給水量 (万 m^3 /日)	86.2	81.4
一日平均給水量 (万 m^3 /日)	76.2	75.8
年 間 給 水 量 (万 m^3 /年)	27,810.5	27,725.2

(3) 河川ごとの給水可能量

(単位 万 m^3 /日)

区 分	木曾川	長良川	揖斐川	合 計
水利権の給水可能量	160.6	16.1	8.0	184.7
10年に1回程度の 渇水年の給水可能量	106.3	12.1	5.7	124.1
平成6年相当の 給 水 可 能 量	81.6	4.8	3.0	89.4

1 1 水道の水源施設建設負担金について

(単位 百万円)

区 分	元 年 度	元年度までの 累 計 額
木 曾 川	— (2)	41,959 (9,676)
長 良 川	—	15,076 (2,095)
揖 斐 川	1,490 (115)	29,703 (3,019)
徳 山 ダ ム	1,480 (115)	29,530 (3,019)
木 曾 川 水 系 連 絡 導 水 路	10	173
合 計	1,490 (117)	86,739 (14,790)

(注1) () 内は一般会計出資金の額である。

(注2) 端数処理の都合上、内訳と合計は一致しない。

1 2 有収水量及び給水収益の推移について

(1) 有収水量

(単位 千 m^3)

区 分	一般用	業務用等	合 計
令和2年1月	19,851	2,367	22,218
対前年同月 増 減 量	179	$\Delta 28$	151
2月	19,204	2,317	21,521
対前年同月 増 減 量	14	$\Delta 64$	$\Delta 50$
3月	18,873	2,086	20,959
対前年同月 増 減 量	284	$\Delta 232$	52

(2) 給水収益

(税抜、単位 百万円)

区 分	一般用	業務用等	合 計
令和2年1月	2,779	824	3,603
対前年同月 増 減 額	22	$\Delta 3$	19
2月	2,632	781	3,413
対前年同月 増 減 額	27	$\Delta 18$	9
3月	2,554	755	3,309
対前年同月 増 減 額	$\Delta 42$	$\Delta 46$	$\Delta 88$

1 3 給水停止件数の推移について

(単位 件)

区 分	3 0 年 度	元 年 度
給水停止件数	6 , 0 4 7	6 , 8 1 3

1 4 工業用水道の水需要予測、給水実績及び河川ごとの給水可能量について

(1) 水需要予測

(単位 $\text{m}^3/\text{日}$)

目 標 年 次	2 7 年 度
給 水 量	9 7, 0 0 0

(2) 給水実績

区 分	3 0 年 度	元 年 度
一日平均給水量 ($\text{m}^3/\text{日}$)	6 3, 1 7 8	6 3, 5 1 6
年 間 給 水 量 ($\text{m}^3/\text{年}$)	2 3, 0 6 0, 0 1 3	2 3, 2 4 6, 9 7 1

(3) 河川ごとの給水可能量

(単位 $\text{m}^3/\text{日}$)

区 分	庄内川	揖斐川	合 計
水 利 権 の 給 水 可 能 量	9 3, 0 0 0	5 6, 0 0 0	1 4 9, 0 0 0

(注1) 庄内川からの取水は、かんがい期に限られる等の課題がある。

(注2) その他の水源として、河川の他に下水処理水等がある。

15 工業用水道の水源施設建設負担金について

(単位 百万円)

区 分	元 年 度	元年度までの 累 計 額
揖 斐 川	5 (2)	11,007 (1,956)
徳 山 ダ ム	—	10,932 (1,934)
木 曾 川 水 系 連 絡 導 水 路	5 (2)	76 (23)
合 計	5 (2)	11,007 (1,956)

(注1) ()内は一般会計出資金の額である。

(注2) 端数処理の都合上、内訳と合計は一致しない。

1 6 工事請負契約における 1 者入札の状況について

(単位 件)

契約金額	契約件数	落札率			
		90% 未満	90% 以上 95% 未満	95% 以上	100%
1 億円以上	1 9	0	1	1 8	2
1 億円未満 1,000 万円以上	1 3 0	7	1 7	1 0 6	1 5
1,000 万円未満	1 6 5	6	1 2	1 4 7	2 6
合 計	3 1 4	1 3	3 0	2 7 1	4 3

(注 1) 契約金額は当初契約時点のもので、消費税及び地方消費税を除く。

(注 2) 工事請負契約全体件数は、令和元年度が 860 件、平成 30 年度が 845 件である。